

編集後記

人生には種々様々な経験がある。その一々の経験が内面化されることにおいてあらゆる経験がわれわれに深い意味をもたせて迫ってくるのである。そこには無意味な経験は一つとして存在しない。それ故、われわれは一々の経験を人生に生かして行くべきであり、そこから新たな人生の地平が開けてくる筈である。

殊に哲学・文学・芸術等各方面において、主体性、実存ということが云われて久しい。それらの意味は簡単に定義することはできないが、内面性ということと深く繋っているといっている。主体性・実存ということが問題とされるのは、生きた現実から抽象した観念の世界で空転している思想への批判・抗議であり、こうした反省がわれわれに常に迫られている。このことは宗教の世界でも深く反省されなければならない課題である。信仰の深さと強さは、それが最も深く人間の内面性に繋る点にある。仏教の理論を如何に理解していても、それが内面化されていなければ、それは単なる理論であっても信仰にはならない。むしろその本質的意味が内面化されるところに生きた信

仰がある。したがって教が思想されている限り、その教は身につかない。宗祖が「聞と言ふは、衆生仏願の生起本末を聞きて疑心有ること無し、是を聞と曰ふ」と頌解されたのは、如来願心の内面化を示すものである。金子先生は如来の本願は「人間の理想ではない。自然の精神である。しかれば聞思して信受奉行するの外なきものである」といい、浄土は「ただこれ欣仰し願生すべき一如の世界である」と教示されている。「如の世界観」は百枚にも及ぶ論稿を先生自ら御執筆いただきました。茲に厚く御礼申し上げます。本稿の後半は次号に掲載させていただきます。

石田先生の「親鸞聖人の大乘仏教的救済観」、白井先生の「本願聞思の道」は昨年度真宗学会大会の講演をまとめたものであります。石田先生には本誌掲載のため加筆訂正下さいました。安田先生には「たまわりました主体」という思索深い論稿を頂戴しました。諸先生に厚く御礼申し上げます。また本号は若き学徒の学究意欲を駆りたて、新鮮味を加えるべく、貴山、炭甕、林、法雲、丸尾の五君の文学部卒業論文を要約して掲載しました。

(江上)

昭和50年6月30日 印刷
昭和50年7月10日 発行

親鸞教学 第26号 辛 550

京都市北区小山上総町22

大谷大学真宗学会

親鸞教学編集部

発行人 藤原幸章

大谷大学真宗学研究室 振替 京都 8225番

京都市中京区寺町通三条上ル

文栄堂書店

振替 京都 2948番

京都市下京区七条御所ノ内中町50

中村印刷株式会社

電話 (313) - 0468番

編集

発行

発売

印刷